

目次

本書のはじめに	2	⑧診断	31
本書の発刊および認定医申請における倫理指針と 個人情報保護方針	3	8.1 プロブレムリストの作成と個々の患者の 総合診断	
目次	4	8.2 骨格の異常と歯・歯列の異常	
執筆者一覧	6	8.3 下顎前突	
		8.4 上顎前突	
		8.5 上下顎前突	
		8.6 開咬とlong face syndrome	
		8.7 過蓋咬合	
		8.8 顔面非対称	
		8.9 歯槽骨肥大	
PART 1 顎変形症とは	8	⑨治療計画作成	35
①顎変形症の定義	8	9.1 成長期患者の治療時期の検討	
②外科的矯正治療とは・チーム医療	9	9.2 顎矯正手術時期の検討	
③顎変形症により引き起こされる問題	10	9.3 顎矯正手術の安定性のヒエラルキー	
3.1 顔貌の異常		9.4 外科的矯正治療計画の立案	
3.2 咬合の異常		9.5 治療予測	
3.3 機能異常			
3.4 心理社会的問題			
3.5 QOL (quality of life)			
④外科的矯正治療の意義	12		
⑤顎変形症の種類	12	PART 3 顎矯正手術	41
5.1 骨格性上顎前突症		⑩顎矯正手術の歴史	41
5.2 骨格性下顎前突症		10.1 創成期	
5.3 骨格性開咬症		10.2 発展期	
5.4 顔面非対称(顎偏位)		10.3 成熟期	
5.5 その他		10.4 日本での顎矯正手術	
⑥顎変形症の原因	14	⑪上顎の手術	43
6.1 先天異常		11.1 顎変形症手術(Le Fort I型骨切り術, 多分割 Le Fort I型骨切り術, 馬蹄形骨切り術)	
6.2 顎変形症の発生原因(後天的原因)		11.2 Le Fort II型骨切り術, Le Fort III型骨切り術	
		11.3 上顎のsegmental osteotomy	
		11.4 Surgical assisted rapid palatal/maxillary expansion (SARPE/SARME)	
PART 2 診察・検査・診断・治療計画作成	19	⑫下顎の手術	48
⑦診察・検査(矯正)	19	12.1 下顎枝矢状分割術(SSRO)	
7.1 全身的检查		12.2 下顎枝垂直骨切り術(IVRO)	
7.2 顔面写真		12.3 下顎枝逆L字型骨切り術(ILRO)	
7.3 口腔内写真		12.4 下顎のsegmental osteotomy	
7.4 セファログラム		⑬オトガイ形成術, 下顎角部形成術	54
7.5 側面セファログラム分析法		13.1 オトガイ形成術	
7.6 軟組織側貌の分析		13.2 下顎角部形成術	
7.7 正面セファログラム分析法		⑭上下顎手術の組み合わせ	57
7.8 軟組織正貌の分析(軟組織正中の決定)		⑮骨片固定法	58
7.9 口腔模型		15.1 線固定法(wire fixation)	
7.10 デンタルエックス線写真		15.2 スクリュー(ネジ止め)固定法(rigid fixation)	
7.11 パノラマエックス線写真		15.3 プレート固定法(plate fixation)/semi-rigid fixation	
7.12 顎関節部のエックス線写真			
7.13 Computed tomography(CT), 三次元CT			
7.14 MRI			
7.15 シンチグラム			
7.16 顎口腔機能検査			

⑩骨延長法	60
16.1 上顎骨延長法	
16.2 下顎骨延長法	
⑪骨移植	61
17.1 顎変形症患者における骨移植の目的	
17.2 骨移植の材料	
17.3 Le Fort I型骨切り術における骨移植	
17.4 下顎手術における骨移植	
17.5 美的不調和の改善を目的とした骨移植	
17.6 顎関節の再建のための骨移植	
⑫軟組織形成術	63
18.1 顎矯正手術の後戻り防止のための手術	
18.2 顎矯正手術後にともなう軟組織変形を防止するための手術	
18.3 顎矯正手術後に悪化した美的不調和の改善のための手術	
⑬顎関節形成術	66
19.1 顎関節円板整位術	
19.2 顎関節授動術	
19.3 下顎頭形成術	
19.4 顎関節人工関節全置換術	
⑭術直前の手術計画・手術時の咬合決定法	67
20.1 手術術式の決定	
20.2 手術時の顎骨の位置決定法	
⑮周術期管理	70
21.1 手術直前	
21.2 術中	
21.3 術後	

PART 4 矯正歯科の役割 74

⑲術前矯正治療	74
22.1 デンタルコンペンセーション・叢生の解消と抜歯	
22.2 抜歯空隙の利用法	
22.3 上下顎歯列弓幅径の調整	
22.4 顎骨内での歯列正中線のずれの改善	
22.5 術前矯正治療におけるそのほかの検討点	
⑳周術期管理における矯正歯科医の役割	80
23.1 手術直前	
23.2 術中および術直後	
㉑術後矯正治療	83
㉒保 定	84
㉓矯正歯科治療の限界と補綴治療による咬合構築	84

PART 5 患者に理解してもらうこと 86

㉔外科的矯正治療にともなう不快事項	86
27.1 全身麻酔や手術全般にみられる合併症と偶発症	
27.2 顎矯正手術に関する合併症と偶発症	
27.3 矯正歯科治療に関する合併症と偶発症	
27.4 後戻り	
㉕代替治療法(矯正)	89
28.1 顎矯正手術のコストとリスク	
28.2 歯科矯正用アンカースクリューを併用した代替治療	
28.3 補綴治療による咬合構築	
㉖外科的矯正治療の健康保険適用(矯正)	93
29.1 顎変形症：顎口腔機能診断料	
29.2 先天異常に起因する顎離断等の手術をともなう歯科矯正治療：歯科矯正診断	
㉗口唇裂・口蓋裂(唇顎口蓋裂)に対する自立支援医療(育成医療・更生医療)	94
付表 1 顎変形症を呈する主な疾患	95
付表 2 健康保険を矯正歯科治療に適用できる厚生労働大臣が定める疾患	96
さくいん	97